FC商用車対応水素ステーションの整備計画について

○ FC商用車対応水素ステーション整備の方針

- 自動車メーカー、輸送・荷主事業者、水素ステーション事業者による三すくみ状態を打破していく必要があるものの、一定の水素燃料需要※が見込まれる上で、FC商用車対応水素ステーションの整備を促進していく。 ※ 例：大トラ20台/日以上等
- 先行してFC小型トラックが普及する見込みであるため、当面は既存水素ステーションの能力増強を図り、FC商用車対応の大規模水素ステーションの整備を促進する。
- 大型水素ステーションの整備については、以下のいずれかの方針で検討を進める。

① 新たに整備	② 既存水素ステーションの改修	③既存サービスステーションに併設

- 水素ステーション事業者は、FC商用車対応水素ステーションの整備を検討する段階から、輸送事業者と利用方法等について協議・意見交換を図り、効率的な運営を目指す。

＜本WGが想定する水素ステーションの仕様＞

	想定する利用FCV	供給能力（Nm^3/h）	大トラ充填時間	小トラ充填時間	敷地面積（m^2）	愛知県内の水素ST
大型水素ST	大トラ、小トラ、バス、乗用車	1,000程度	約15分	約3分	2,000～3,000	なし
大規模水素ST	小トラ、バス、乗用車	500～800	約30分	約6分	1,000～2,000	豊田豊栄STはじめ3カ所
中規模水素ST①	小トラ、バス、乗用車※	300～500	約1時間	約12分	1,000～2,000	とよた堤STはじめ29カ所
中規模水素ST②	乗用車	50～300	―	―	～1,000	神の倉ST
小規模水素ST	乗用車	～50	―	―	500程度	名古屋城ST

※ 一部、供給能力、プロトコル、車両動線、その他の理由により小トラ、バスへの充填に対応していないSTあり。

FC商用車の導入目標について

○ 国による重点地域の設定を見据えた本県FC商用車導入目標

- 国では、2030年におけるモビリティ分野の水素利用目標を８万トン/年と設定。
  この目標を達成するためのFC商用車の普及台数は全国で約2.8万台と試算される。

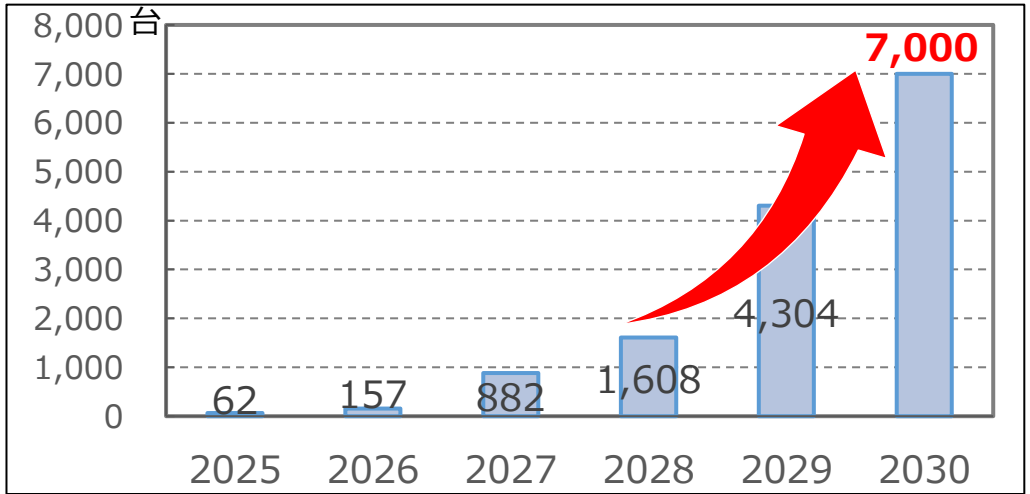
車種		‘22	‘23	‘24	‘25	‘26	‘27	‘28	‘29	‘30
小型トラック	導入・価格（百万円）		限定モデル・約40		次期モデル・約20				次々期モデル・約10	
	供給台数（台/年）		300		約300 ～ 3,000				約6,000 ～ 10,000	累計1.2～2.2万台
大型トラック	導入・価格（百万円）				限定モデル・約160				次期モデル・約80	
	供給台数（台/年）				約50 ～ 200				約1,350 ～ 3,000	累計5000台
バス	導入・価格（百万円）	現行モデル・105			次期モデル・約60					
	供給台数（台/年）	累計120台	約60		約50 ～ 200					

出典：「モビリティ分野における水素の普及に向けた中間とりまとめ」（2023年7月、経済産業省）

FC商用車7000台普及に向けた水素ステーション整備計画

FC小型トラック5,800台、FC大型トラック1,020台、FCバス180台、合計7,000台

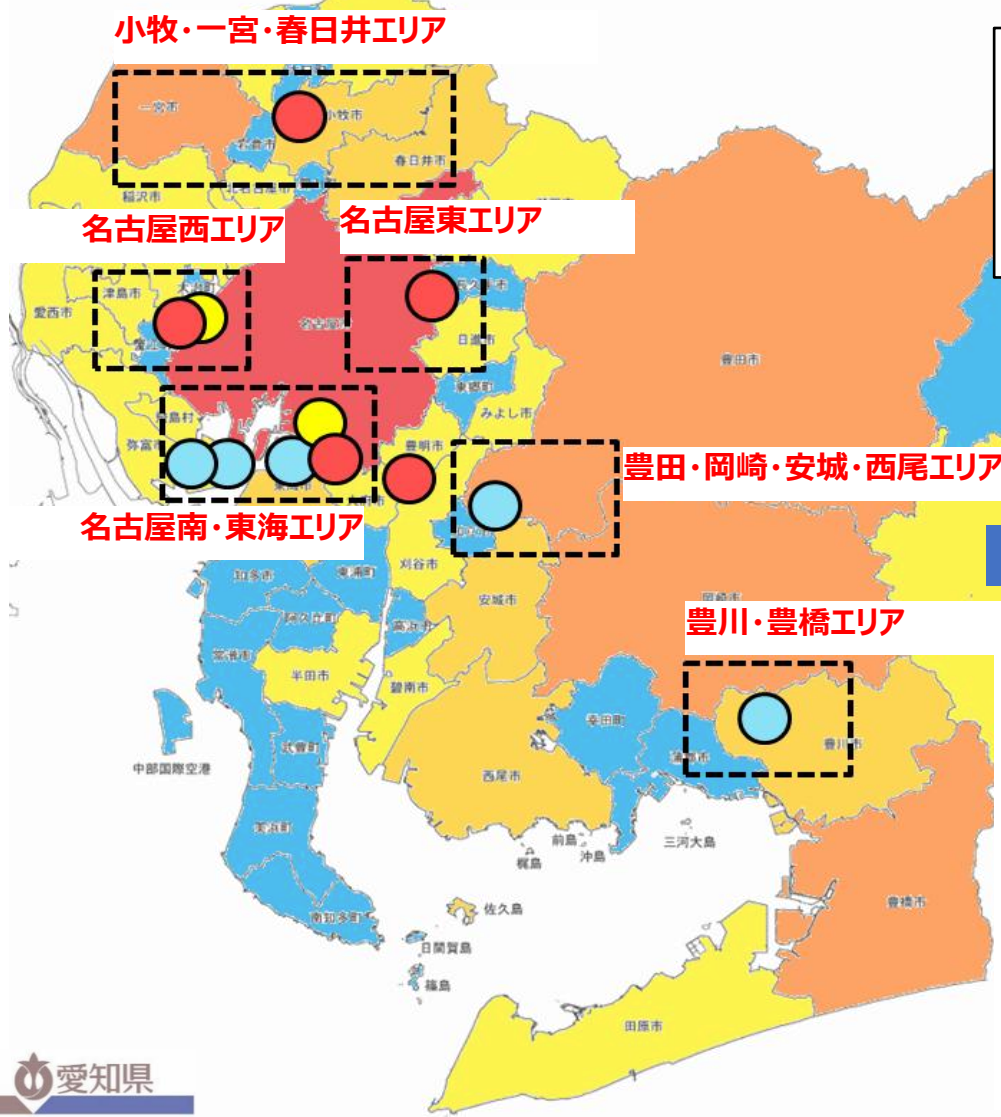
- 愛知県では、全国約2.8万台に対して、主要な幹線道路が通る首都圏～中部圏～関西圏の３エリア及び九州エリアの計4エリアでほぼ利用されることと想定し、愛知エリアにおいて、約2.8万台の4分の１に相当する7,000台を2030年のFC商用車導入目標と設定する。



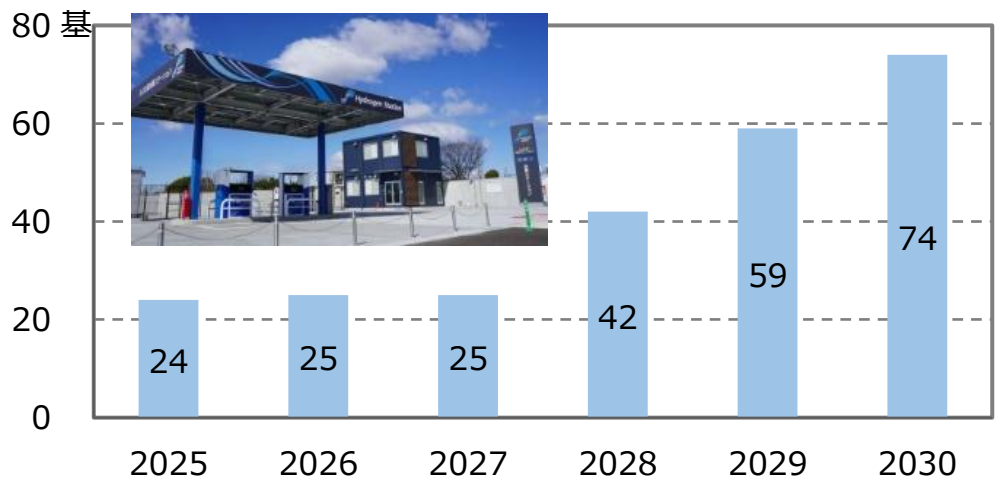
FC商用車対応水素ステーション整備について

○ 本県におけるFC商用車普及重点エリア

● 県内におけるFC商用車導入及びFC商用車対応水素ステーション整備を重点的に実施する６エリアとして**「FC商用車普及重点エリア」**と設定。ただし、当該エリア以外の普及を妨げるものではない。



FC商用車7000台普及に向けた水素ステーション整備計画



愛知県